

DNP

株主通信

DNP Report Vol.67

(証券コード：7912)

特集：DNPのグローバル展開





株主の皆様には、ますますご清栄のことと心よりお慶び申し上げます。また日頃は格別のご支援を賜り、誠にありがとうございます。

株主通信「DNP Report Vol.67」では、業績の概要をご報告するとともに、DNPグループの成長の原動力のひとつとして、グローバルな事業展開について特集でご紹介いたします。

❖ DNPの強みをグローバルに活かす

紙への印刷を中心としたいわゆる印刷産業は、もともと内需型であり、国内の企業の動向に大きく左右されてきました。しかし、少子高齢化などによる国内市場の縮小とともに、企業の海外展開や市場のボーダーレス化が加速する中で、私たちが「グローバルな視点」で事業を捉えていくことの重要性が高まっています。

DNPが推進するグローバル戦略のキーワードは、「私たちの強みを活かすこと」です。日本の多くの企業が海外に進出するから私たちも海外に出ていくという考えではなく、国内に限らず全世界の企業や生活者が抱える課題を、DNPの強みによって解決していくことこそが重要であると考えています。

半世紀におよぶ海外展開の実績

DNPの海外での事業展開の歴史は古く、1964年の香港駐在員事務所開設にまでさかのぼります。以降は、ヨーロッパ、アジア、アメリカ、オーストラリアに拠点を拡大し、DNPヨーロッパ(ドイツ)、テンワプレス(シンガポール、マレーシア)、DNPインドネシア、DNPアメリカ、DNPオーストラリア、DNPデンマークなどを次々に設立しました。その後も活動の範囲を拡げ、現在では15の国と地域に25の営業拠点、12の生産工場を展開しています。

例えば、DNPインドネシアは、包装関連の製造販売会社として“東南アジアNo.1”の地位を確立しています。顧客企業のニーズにきめ細かく対応して、求めに応じて優れた品質の製品をタイムリーに供給することによって、ASEAN

諸国などへの輸出を拡大しています。

「グローバルな視点」で課題を解決していく取り組みによって、DNPは全世界でトップシェアを持つ製品をいくつも提供しています。その結果、私たちの2011年3月期の海外売上高は、1,976億円となり、連結売上高に占める割合は12.4%となりました。

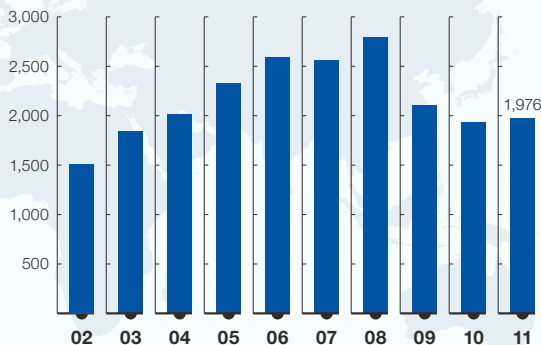
これからもDNPは、社会の抱える課題をグローバルな視点で解決することにより、持続的な成長を実現していきます。

代表取締役社長

北島義俊

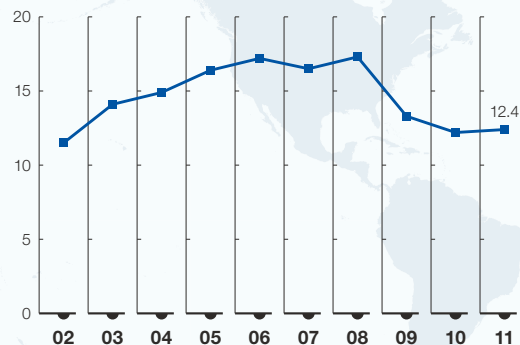
DNPの海外売上高（年3月期）

（単位：億円）



海外売上高比率（年3月期）

（単位：%）



DNPのさらなる飛躍への原動力

—これまでの、そしてこれからのDNPのグローバル展開—



常務取締役 **森野 鉄治**

いま求められている世界規模での課題解決

「これまでの、そしてこれからのDNPの飛躍を牽引する力のひとつが、海外での事業展開です。

特にいま、環境やエネルギー、ユニバーサルデザインへの対応といったソーシャルな課題を考える時、日本の社会は国内だけで成り立っているわけではなく、世界全体とつながっているということを痛感します。環境問題やエネルギー問題はまさに地球規模で解決する必要がありますし、私たちの事業の多くが世界の動きに大きく影響を受けています。例えば、情報コミュニケーション関連では、Twitterなどのソーシャルメディアとデジタルネットワークによって、国境を意識することのない、双方向でリアルタイムな情報のやり取りが実現しています。

その際、日本語フォントの表示、多言語変換の負荷軽減などの課題に対し、情報処理に深く携わってきたDNPが解決策を示すことは可能でしょう。

このような世界規模での課題解決のニーズをチャンスと捉え、グローバルな視点に立って取り組んでいくことは、DNPにとっての重要な成長戦略のひとつです。』

❖ 半世紀にわたるDNPの海外展開の歩み

「DNPは、50年ほど前の1964年に香港に駐在員事務所を開設して以来、海外での事業展開を活発に行ってきました。現在はアジア・北米・欧州を中心に、ビジネスの

ネットワークを確立しています。これらの地域で、書籍などの出版物、チラシやカタログなどの商業印刷物、包装材や建材、ディスプレイ用光学フィルム、フォトプリント用カラーインクリボン、半導体用フォトマスクなどの製造・販売を行っています。

こうして世界各地にDNPの拠点を展開する一方、印刷物の受注・製造については34の国と地域のパートナー企業とデジタルネットワークを結び、約60の言語に対応した多言語翻訳・編集・デザインなどの情報サービスを推進しています。このネットワークを活かし、納入地近く生産拠点到データを送って、印刷から製本・配送まで行う最適地生産システムも構築しています。』

[沿革] DNPのグローバル展開について

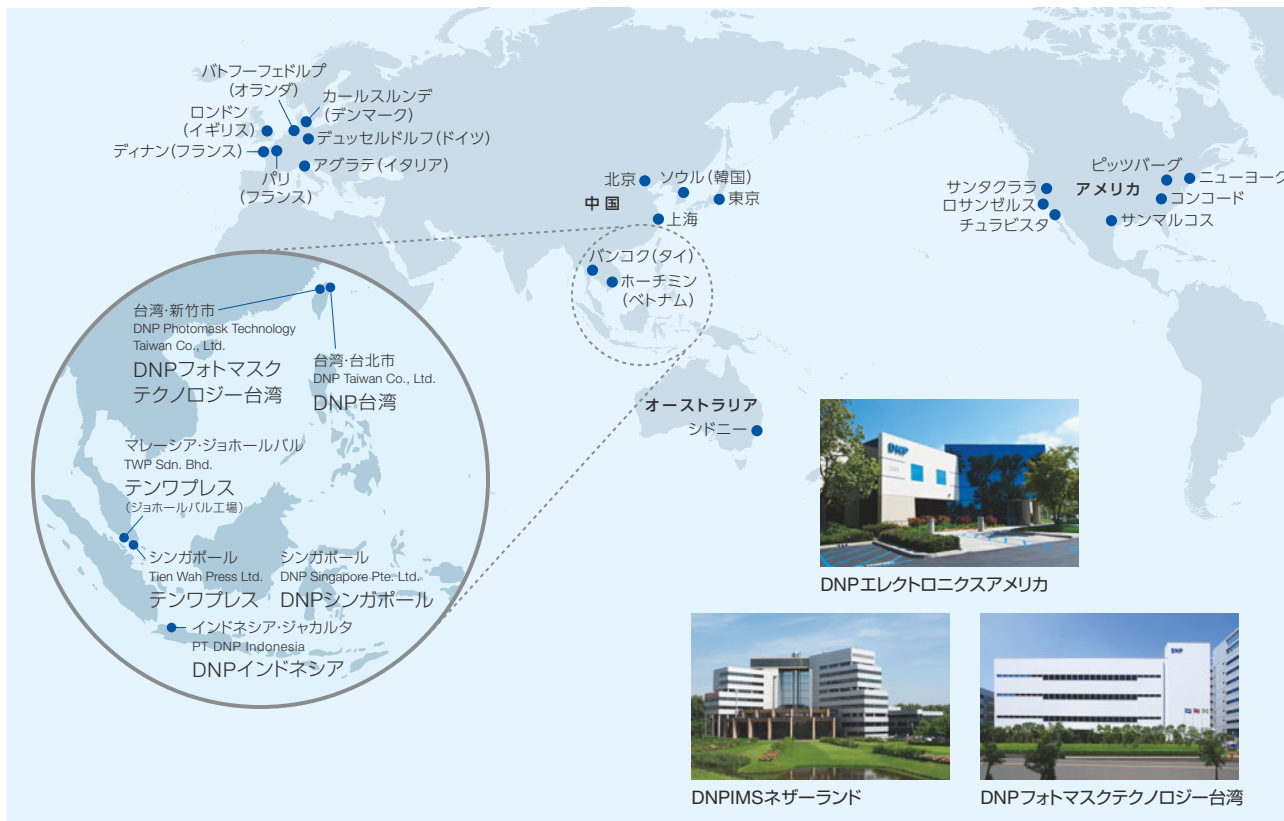
- 1964 (昭和39)年 香港駐在員事務所を開設
- 1968 (昭和43)年 ニューヨーク駐在員事務所を開設
- 1969 (昭和44)年 シドニー駐在員事務所、フランクフルト駐在員事務所を開設
- 1970 (昭和45)年 ドイツに建材製品やパッケージ製品の販売会社「DNPヨーロッパ」を設立
- 1972 (昭和47)年 インドネシアにパッケージ製品等の製造・販売会社「DNPインドネシア」を設立
- 1974 (昭和49)年 書籍や商業印刷物、建材製品、エレクトロニクス関連部材の販売会社「DNPアメリカ」を設立
- 1989 (平成 1)年 リアプロジェクトスクリーン等の製造・販売会社「DNPデンマーク」を設立
- 1990 (平成 2)年 シンガポールの書籍や商業印刷物の製造・販売会社「テンワプレス」の経営権を取得
建材製品やエレクトロニクス関連部材等の販売会社「DNPシンガポール」を設立
- 1998 (平成10)年 台湾にエレクトロニクス関連部材の販売会社「DNP台湾」を設立
- 2000 (平成12)年 韓国にエレクトロニクス関連部材の販売会社「DNPコリア」を設立
- 2002 (平成14)年 イタリアにフォトマスクの製造会社「DNPフォトマスクヨーロッパ」を設立
- 2003 (平成15)年 フランスに熱転写インクリボンの販売会社「DNPIMSフランス」を設立
- 2005 (平成17)年 中国・上海に商業印刷物等の販売会社「迪文普国際貿易(上海)有限公司」を設立
- 2008 (平成20)年 オランダに熱転写インクリボンの製造会社「DNPIMSネザーランド」を設立
- 2010 (平成22)年 台湾のフォトマスク製造会社「DNPフォトマスクテクノロジー台湾」の新工場竣工

❖ DNPの強みを活かしてグローバルな課題を解決する

「DNPのグローバル戦略のキーワードは、全世界で“私たちの強みを活かすこと”です。日本国内はもちろん、世界中のどこにおいても、それぞれの国や地域の実情に合わせて、DNPの強みを活かしたきめ細かい課題解決に努めています。私たちは、単に既存の製品やサービスを販売することで売上を確保するのではなく、地域によって異なる社会基盤の課題や、企業・生活者が抱える課題を解決することにより、新しい価値を創造し、地域とと

もに成長していくことを目指しています。

例えば、包装や建材の分野では、日本国内で求められる製品スペックと、東南アジア、ヨーロッパ、アメリカなどで必要とされる機能が大きく異なる場合があります。DNPは、それぞれの地域でどのような付加価値が満足につながるのか、企業や生活者との“対話”を深め、本当に求められている機能やソリューションの提供に注力しています。」

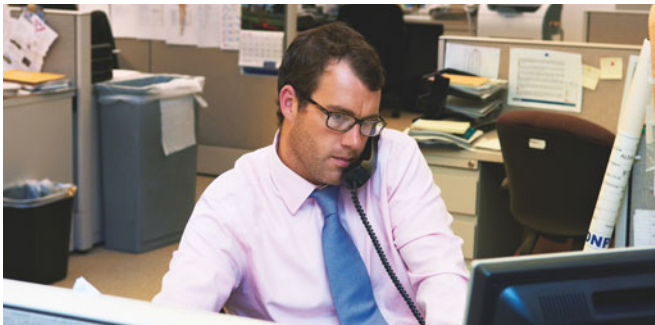


❖ これからの取り組みと課題

「今後DNPが、海外での事業を拡大するための重要な戦略のひとつは、めざましい経済成長が期待されるアジア地域をターゲットとすることです。ASEANを中心に、中国やインドなども含むアジア地域は、DNPにとっても大きな可能性にあふれています。アジア諸国の内需拡大とともに、人々の生活の質的向上が期待されるなか、機能性に優れた包装材や建材などの生活関連製品のほか、美しいグラフィック表現による出版印刷や商業印刷の需

要も高まっています。エレクトロニクス部門でも、世界の生産・技術開発拠点としてのアジアの役割が強まっており、この地域での事業基盤の拡充はDNPのグローバル展開の要ともなります。

私たちは、グループとしての連携を深め、研究開発や製品・サービス開発の促進、最適地生産や業務効率化による収益性の向上などに取り組み、国内外で売上と利益を拡大していきます。」



DNPアメリカ



DNPインドネシア



DNPエレクトロニクスアメリカ



テンワプレス

DNPインドネシア (PT DNP Indonesia)

“アジアNo.1のパッケージングカンパニーへ”

インドネシアを拠点とし、急成長するASEAN地域へ高品質なパッケージを提供



DNPインドネシア カラワン工場



印刷の状況をチェックする様子

30年の実績を活かし、グローバルカンパニーのパートナーとして事業を拡大

1972年、DNPは「インドネシアにパッケージングの文化を広める」ことを目指し、DNPインドネシアを設立しました。全ての製造工程を完全内製化し、多様なニーズに対応した高品質な製品とサービスを提供することで、顧客企業と強固な信頼関係を築いてきました。

現在は、日用品や食品などの多くのパッケージ分野でトップシェアを獲得しているほか、世界規模で事業を展開する化粧品やスポーツ用品企業の現地パートナーとして、高品質なパッケージを提供しています。同社はインドネシア国内だけでなく、ASEAN地域でも圧倒的な競争優位性を確立し、安定した業績を確保しています。

2,000人を超える従業員のほとんどは現地で採用した人々です。研修制度を充実させ、従業員の能力開発などに取り組み続けた結果、10年前とほぼ同じ人数で売上を約2倍にするなど、着実な成果をあげています。

会社概要

名称：PT DNP Indonesia
所在地：インドネシア ジャカルタ
設立：1972年
資本金：26,000千USDドル

急成長する市場 = 大きなビジネスチャンス

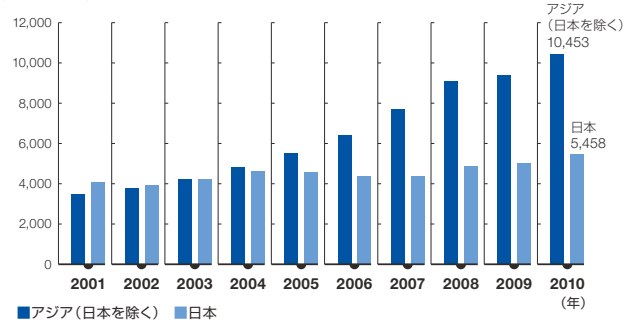
インドネシアは過去9年連続で年率4%以上の経済成長を遂げており、今後も6~7%程度の高い成長が続くと見込まれています。政府もさまざまな振興策を打ち出しており、10年後に1人当たりGDPを10倍にする計画も進んでいます。急成長する市場において、モノの動きが活発化し、食品や飲料、生活用品や医薬品など、あらゆる分野でパッケージへの需要が高まっており、DNPインドネシアに大きなビジネスチャンスが訪れています。

これからの取り組み = 東南アジアから世界へ

DNPインドネシアは、域内の同業他社を圧倒する生産規模、技術開発力、品質やサービスを強みとして、顧客企業の多様で高度な要望にきめ細かく応え、インドネシア国内で他社の追随を許さない地位を確立してきました。製品開発に関しては、日本国内で培った高い技術やノウハウを活かして、高品質なレトルト用包装材や、酸素や水蒸気のバリア性に優れたプラスチック製包装材などを、東南アジア市場のニーズに合わせてアレンジするなど、付加価値や機能を高めています。

アジアと日本の名目GDP

(単位:10億ドル)



同社は、ASEAN地域におけるパッケージ分野のリーディングカンパニーの地位をより確固たるものとし、優れた技術を活かして、高品質な製品・サービスを提供し続けることで、「アジアNo.1のパッケージングカンパニー」を目指しています。また、新興国を中心に消費地の近くに生産拠点を開設し、アジア・中東・アフリカなどに世界規模で製品を供給している現在の生産体制をさらに強いものとしていきます。



印刷されたフィルムの巻取を行う様子



カラワン工場内の印刷機



現地デザインの各種パッケージ製品

第1四半期決算のご報告 (平成23年4月1日から平成23年6月30日)

連結業績の概況

(単位:億円)

科目	当第1四半期	前第1四半期
売上高	3,703	3,961
営業利益	74	215
経常利益	110	225
四半期純利益	43	87

連結業績の予想(平成24年3月期通期)

(単位:億円)

売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
15,760	500	520	190

1株当たり当期純利益29円50銭

ポイント解説

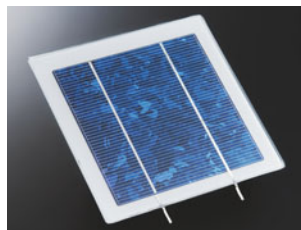
売上高は、情報コミュニケーション部門は、震災による自粛ムードの影響から企業の広告宣伝費が減少し、雑誌やカタログなどが低調に推移しました。生活・産業部門は、包装関連や、環境配慮製品が増加した住空間マテリアル関連は前年を上回りました。産業資材関連では、太陽電池用バックシートなどは増加しましたが、薄型ディスプレイ用反射防止フィルムなどが減少しました。エレクトロニクス部門は、液晶カラーフィルターやフォトマスクが、震災の影響から需要が落ち込み、前年を下回りました。清涼飲料部門は前年を下回りました。その結果、当第1四半期連結累計期間のDNPグループの連結売上高は3,703億円(前年同期比6.5%減)、連結営業利益は74億円(前年同期比65.5%減)、連結経常利益は110億円(前年同期比51.0%減)、連結四半期純利益は43億円(前年同期比50.3%減)となりました。

部門別の状況

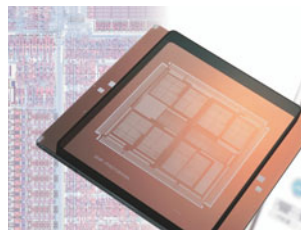
印刷事業



ポップアップブック



太陽電池用部材



半導体用フォトマスク

清涼飲料事業



清涼飲料

情報コミュニケーション部門

売上高	1,725億円
前年同期比	3.9%減
営業利益	18億円
前年同期比	65.1%減

生活・産業部門

売上高	1,311億円
前年同期比	3.1%減
営業利益	86億円
前年同期比	39.3%減

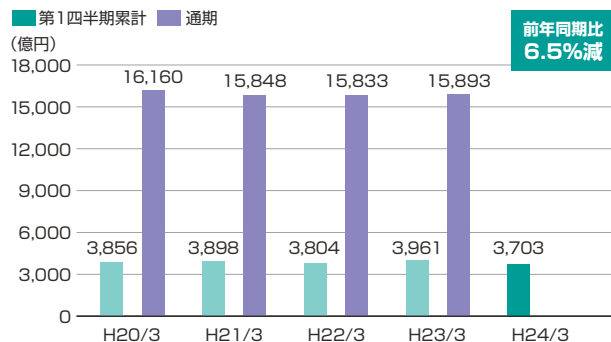
エレクトロニクス部門

売上高	574億円
前年同期比	20.3%減
営業損失	2億円
前年同期は52億円の営業利益	

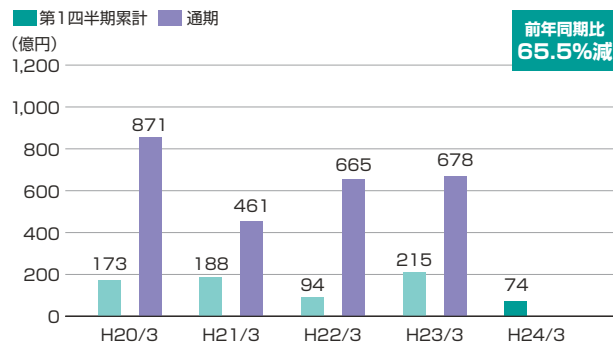
清涼飲料部門

売上高	116億円
前年同期比	9.3%減
営業損失	2億円
前年同期は4億円の営業損失	

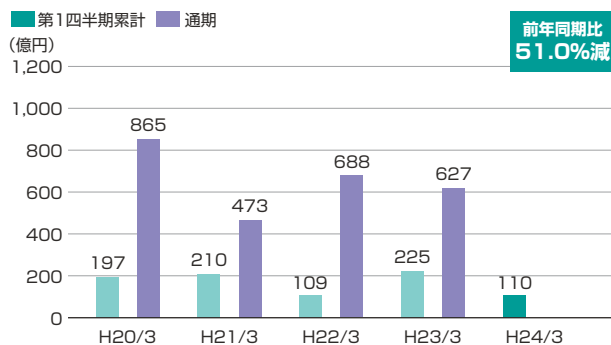
連結売上高



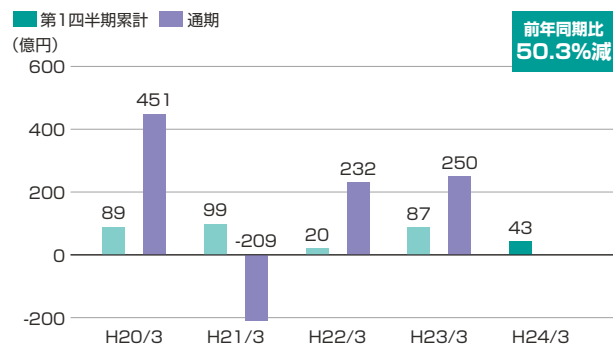
連結営業利益



連結経常利益



連結当期純利益



連結貸借対照表(要約) (単位:億円)

	当第1四半期 連結会計期間末	前連結会計年度末
資産	16,273	16,497
流動資産	7,703	7,909
固定資産	8,558	8,575
繰延資産	11	12
負債	6,781	6,973
流動負債	4,292	4,477
固定負債	2,488	2,495
純資産	9,492	9,524

配当予想(1株当たり配当金)

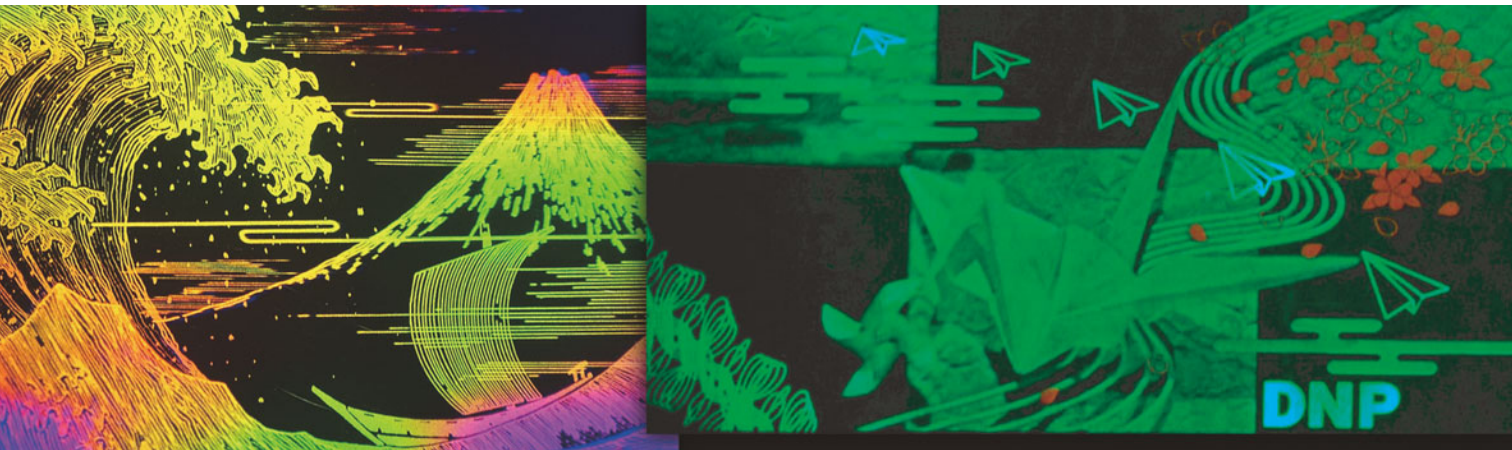
基準日	第2四半期末	期末	年間
平成24年3月期 (予想)	16円00銭	16円00銭	32円00銭
平成23年3月期 (実績)	16円00銭	16円00銭	32円00銭

“フォーカスDNP”シリーズ【第7回:ホログラム】

このコーナーでは、私たちの暮らしと、DNPの製品・サービスとの密接な関係を分かりやすく紹介します。

ひとめでわかるセキュリティ、

偽造対策などに活用される最先端技術—世界に広がる「リップマン型ホログラム」



❑ 高度な情報セキュリティ基盤を活かした事業展開

近年、企業の重要情報や生活者の個人情報などを、より安全に、より適切に扱うことが強く求められています。こうした情報セキュリティのニーズに、DNPは、“モノづくり”と“情報処理”の両面で、独自のセキュリティ技術を活かした事業展開を行っています。“モノづくり”に関しては、ホログラムなどのセキュリティ印刷を中心に取り組んでいます。

❑ セキュリティ用途で拡大するホログラムを高度な印刷技術で製造

見る角度や、光の当たる角度によってさまざまな見え方をするホログラムは、偽造や模倣品を防止するセキュリティ用途から、高い意匠性を得るためのグラフィック用途まで、幅広く利用されています。近年は、クレジットカードやキャッシュカード、商品券などの金券類、パスポート

や身分証明書などで、偽造防止を目的とした使用例が増えています。商品の偽造や模倣品への対策としてホログラムを用いる場合、目視によって正規品との区別ができるため、商品ブランドを保護することができます。

DNPは、1972年からホログラムの商品開発に取り組んできました。1981年には、輝度が高く、微細な画像を表現できるエンボス型ホログラムの量産を、2001年には、立体感や奥行き感の表現に優れるリップマン型ホログラムの量産をそれぞれ開始しました。特に、高いセキュリティが必要な製品向けに最適なリップマン型ホログラムは、特殊な設備や高度な技術が必要なため、DNPを含め世界でも数社しか量産に対応しておらず、各国企業から注目され採用実績が増えています。

またDNPは、国内外で高まる情報セキュリティへのニーズに、ホログラムをはじめとしたモノづくりだけでなく、ICカードや認証システムの開発など、情報処理やシステム開発の面でも対応していきます。

❖【6月8日発表】『ルーヴル-DNP ミュージアムラボ』の美術鑑賞システムをルーヴル美術館が採用

DNPとルーヴル美術館は2006年から、美術作品の新しい鑑賞方法を開発する共同プロジェクト「ルーヴル-DNP ミュージアムラボ」を推進しています。このプロジェクトでDNPが開発した鑑賞システムが、ルーヴル美術館に採用され、パリ本館の工芸部門展示室に今年6月に導入されました。このシステムは、18世紀にフランス王室で使われていたセーヴル磁器の製作技術や、当時のフランス式の食卓儀礼をアニメーションや3次元CGなどで再現するものです。

今後このプロジェクトでDNPが開発する美術鑑賞システムは、ルーヴル美術館の常設展示室に順次導入される予定です(2012年：古代エジプト美術部門、2013年：絵画部門、2014年：彫刻部門)。またDNPは、こうした鑑賞システムを国内外の美術館や博物館へ、積極的に展開していきます。



ルーヴル美術館パリ本館に導入された鑑賞システム
©2011 musée du Louvre/Antoine Mongodin

❖【7月1日発表】プライベートブランド商品のパッケージを広告に活用 —— 新グループ会社『株式会社フレップス』設立

DNPは、スーパーマーケットなどの流通企業が販売するプライベートブランド(PB)商品の容器や包装紙を広告媒体とする新しいビジネスを展開します。流通企業はPB商品上の広告スペースから収入が得られ、広告スポンサーはPB商品に関連する自社製品を宣伝することで高い販促効果が得られます。

DNPはグループ会社「株式会社フレップス」を7月1日に設立し、この新たな広告事業を展開します。フレップスは、広告効果の分析や店頭プロモーションの支援など、メーカーなどのスポンサーと流通企業を結ぶコンサルティングサービスも提供し、新しい広告市場の創出に努めます。



牛乳と相性の良いチョコレートシロップの
広告を掲載したPB商品の牛乳パック

会社概要

商号

大日本印刷株式会社

英文社名

Dai Nippon Printing Co., Ltd.

本社所在地

東京都新宿区市谷加賀町一丁目1番1号
 電話 03 (3266) 2111 ダイヤルイン案内台
 URL <http://www.dnp.co.jp/>

創業

明治9年(1876年)10月

設立年月日

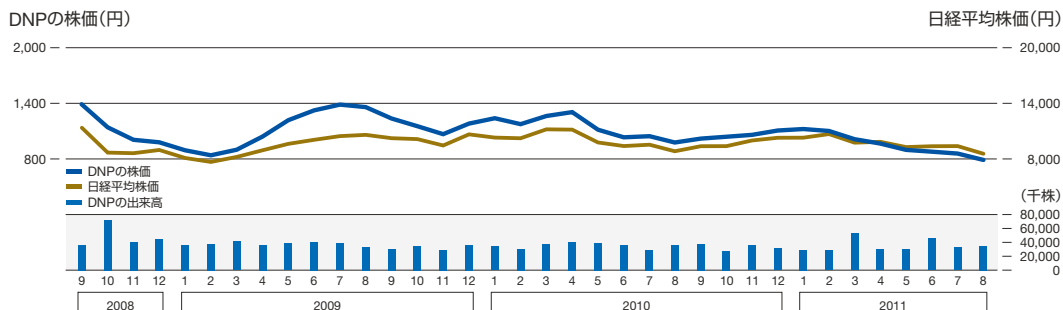
明治27年(1894年)1月19日

資本金

1,144億6,476万円

株式の状況 発行済株式総数 700,480,693株

株価 / 出来高推移



表紙：世界で活躍するDNPグループの社員

CONTENTS

株主の皆様へ	2
特集：DNPのグローバル展開	4
世界のDNPグループ④ DNPインドネシア	8
第1四半期決算のご報告	10
“フォーカスDNP”シリーズ【第7回：ホログラム】	12
ピックアップニュース	14
会社情報	15
株主メモ	16

※当株主通信は、DNPの事業ビジョンや業績に関する情報の提供を目的としています。記載された意見および予測は、作成時点でのDNPの判断に基づいたもので、これらの情報の完全性を保証するものではありません。

※記載されている会社名、製品名は、それぞれの会社の登録商標または商標です。

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会開催時期	6月
上記総会における議決権の基準日	3月31日 その他必要のある場合は、取締役会の決議によりあらかじめ公告して設定します。
剰余金の配当基準日	期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
上場証券取引所	東京・大阪
公告方法	電子公告により行います。(当社のウェブサイト http://www.dnp.co.jp/ir/) ただし、事故その他やむを得ない理由によって電子公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。

※ 株式に関するお問い合わせ先・お手続き窓口

1. 一般口座(証券会社の口座)にある株式

株主様が口座を開設されている証券会社の本支店

2. 特別口座にある株式

特別口座とは、株券電子化までに、「ほふり」(証券保管振替機構)をご利用されなかった株主様につきまして、当社が、みずほ信託銀行に株主名簿上の株主名義で開設した口座です。

(お問い合わせ) みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
(フリーダイヤル)0120-288-324

(お手続き) みずほ信託銀行株式会社 本店および全国各支店
みずほインベスターズ証券株式会社 本店および全国各支店

※ 単元未満株式に関するお知らせ

1,000株に満たない株式(単元未満株式)を所有されている株主様が、当社に対しその単元未満株式と合わせて1単元(1,000株)になる数の株式を買増請求できる「単元未満株式の買増制度」を導入しております。また、単元未満株式の買取請求につきましても、お取り扱いしております。

● DNP Report に関するお問い合わせ先

大日本印刷株式会社 広報室 〒162-8001 東京都新宿区市谷加賀町一丁目1番1号
TEL:03-3266-2111 (ダイヤルイン案内台)



グリーン電力を導入しました(年間115万kWh)。この報告書を印刷する際の電力(400kWh)は、自然エネルギーでまかなわれています。